

リースを現物管理する！ 「Convi.BASE」 解説セミナー

リースを現物管理する！「Convi.BASE」解説セミナー

リース資産の管理方法について、「現物管理」は正しく出来ておりますでしょうか。

本セミナーではリース資産を現物管理する理由と管理時の問題点を整理し、リースの所在地やリース期間などの“現物情報”を一元管理する、「**Convi.BASE**」によるリース資産の管理方法をご紹介します。

「資産物品管理とは？」

「リース資産管理のポイント」

「他社ではどうしてる？」

といった物品管理の現状などをお伝えし、物品管理クラウドサービス「Convi.BASE」での解決案をご紹介します。



リース資産を現物管理する理由

1. 資産計上の正確化

新リース会計基準では、すべてのリースが貸借対照表に計上されるため、「**実際に存在し、使用している**」ことが明確に求められる。計上した資産が実在しないと、会計上の不正と見なされる可能性あり。

2. 契約管理・コンプライアンス対応

リース資産は契約に基づいて借りているモノであるため、契約違反や未返却、未報告といったリスクを避けるために、管理が不可欠。管理されていないと、中途解約・返却の手続き時に「現物が見つからない」なんてことも。

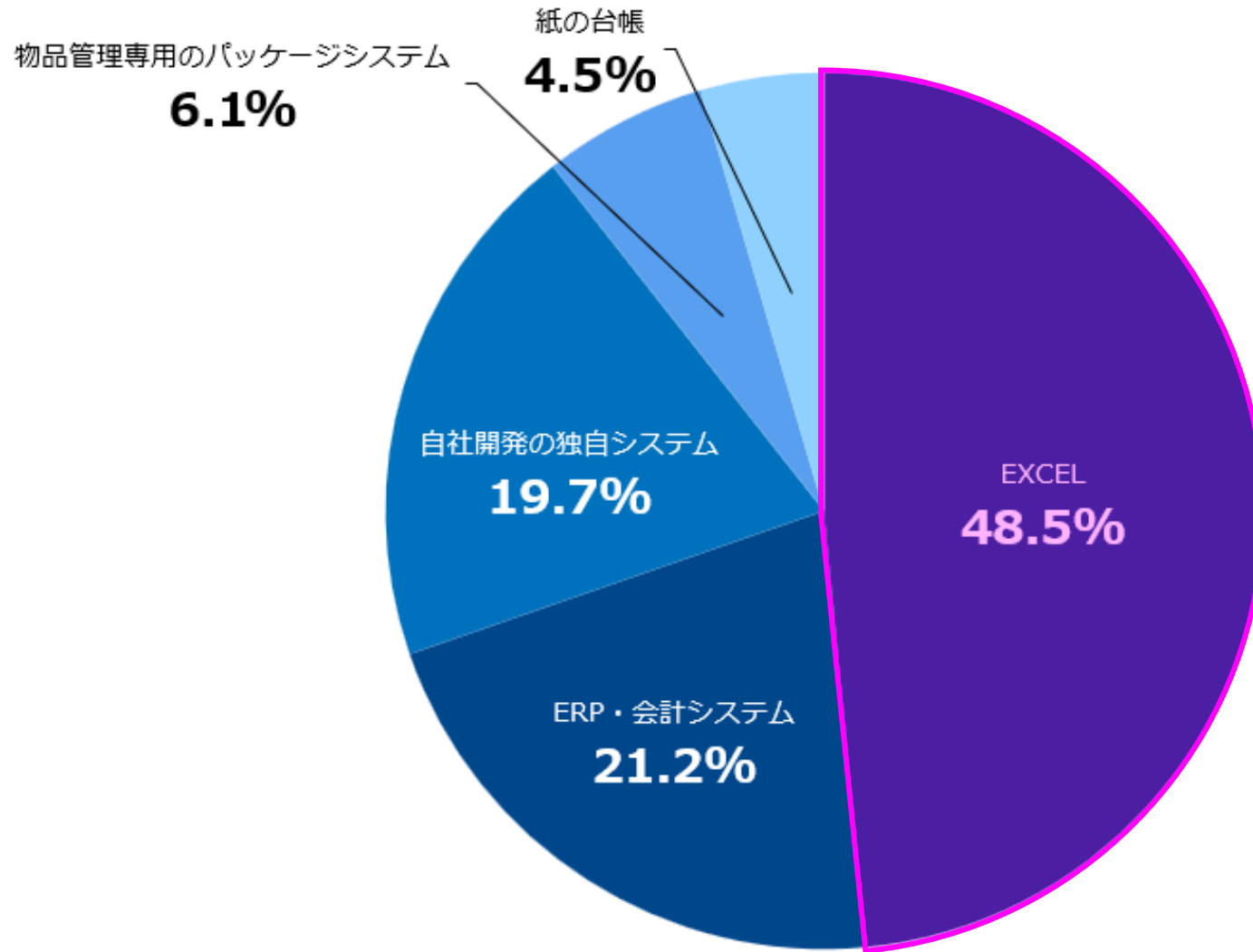
3. 内部統制・監査リスクへの備え

企業の内部統制では、資産の管理状況もチェックされる。リース資産がどこにあって、誰が使っているか、きちんと把握していないと内部統制上の不備とされ、資産の私的利用・横流し・紛失があっても気づけない状態はリスク。

4. 業務効率化・コスト最適化

現物管理をしないと、同じ物品の重複リース・無駄契約してしまうケースが発生。使われていない・不要なリース資産を放置していると、無駄なコストが発生する。

一般的に、リースの現物情報はどうやって管理している？



質問：「固定資産物品の管理台帳として主に使用しているツールをお答えください」

(出典：株式会社コンビベース「2024年度版_固定資産物品の管理に関するアンケート調査（202411-1）」)

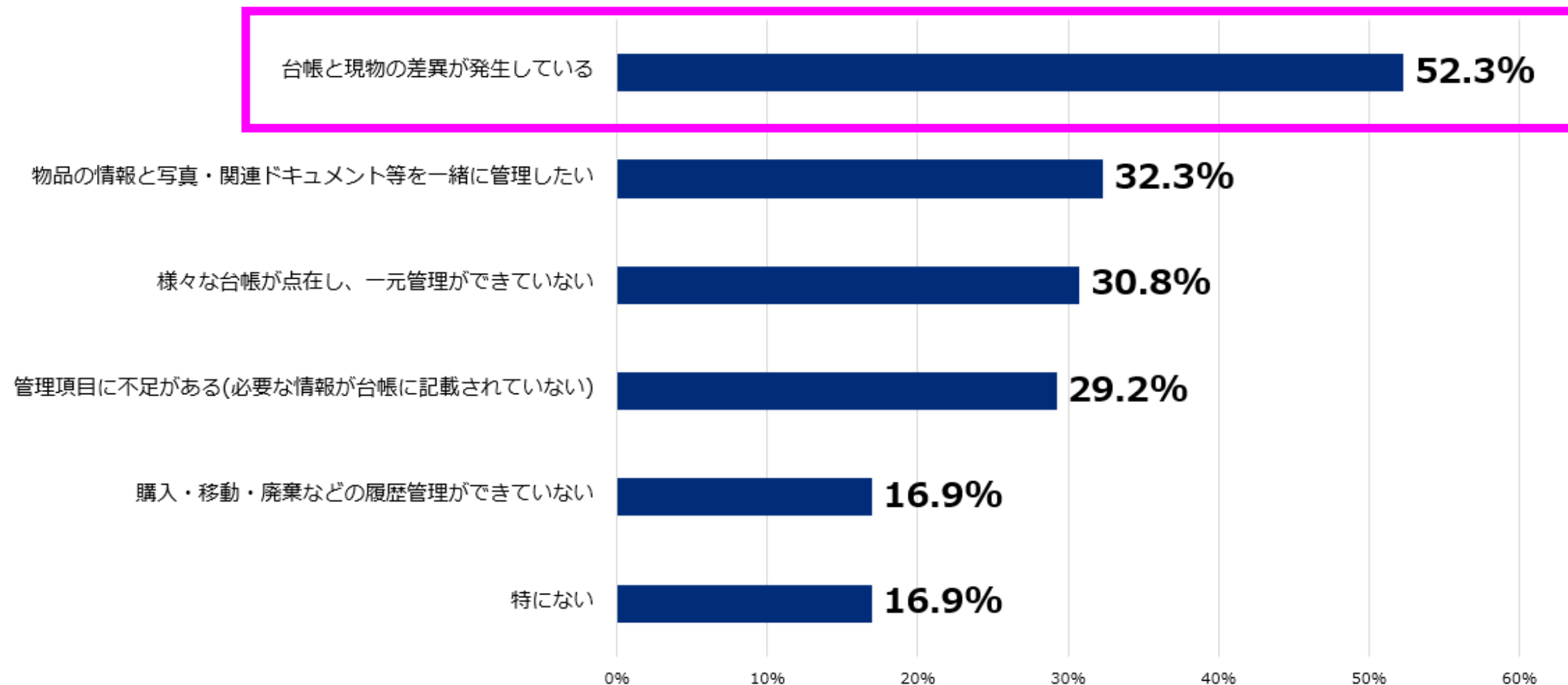
A.管理点数がそのままExcelの行数になるので、 点数が多いほど管理が大変になる！

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	物品管理台帳							
2								
3	管理番号	資産名	資産種別	建物	フロア	設置場所	管理部門	取得年月日
4	00000001	ノートパソコン NRCB	固定資産	東京本社	06F	オフィススペース	総務部	2024/1
5	00000002	ノートパソコン NRCB	固定資産	東京本社	09F	オフィススペース	総務部	2024/1
6	00000003	ノートパソコン NRCB	固定資産	東京本社	09F	オフィススペース	総務部	2024/1
7	00000004	ノートパソコン NRCB	固定資産	東京本社	09F	オフィススペース	総務部	2024/1
8	00000005	空調設備	固定資産	東京本社	09F	オフィススペース	総務部	2024/1
9	00000006	社用車	固定資産	大阪本社	06F	オフィススペース	総務部	2024/1
10	00000007	社用車	固定資産	大阪本社	06F	オフィススペース	総務部	2024/1
11	00000008	社用車	固定資産	東京本社	09F	オフィススペース	総務部	2024/1
12	00000009	社用車	固定資産	東京本社	09F	オフィススペース	総務部	2002/
13	00000010	社用車	固定資産	東京本社	09F	オフィススペース	総務部	2002/
14	00000011	社用車	固定資産	東京本社	09F	オフィススペース	総務部	2002/
15	00000012	応接セット	固定資産	東京本社	09F	オフィススペース	総務部	2003/
16	00000013	業務用机 K L - 3 2 0	固定資産	東京本社	09F	オフィススペース	総務部	2003/
17	00000014	本社内装一式	固定資産	東京本社	09F	オフィススペース	総務部	2003/
18	00000015	シート（通路）	固定資産	東京本社	09F	オフィススペース	総務部	2004/
19	00000016	シート（秘書室）	固定資産	東京本社	09F	オフィススペース	総務部	2004/
20	00000017	シート（社長室）	固定資産	東京本社	09F	オフィススペース	総務部	2004/
21	00000018	シート（副社長室）	固定資産	東京本社	09F	オフィススペース	総務部	2004/
22	00000019	消防設備	固定資産	東京本社	09F	倉庫	総務部	2004/
23	00000020	ノートパソコンKT	固定資産	東京本社	09F	オフィススペース	総務部	2024/

一般的なリースの管理項目

- リース契約番号
- 型番・シリアル番号
- 導入日・リース期間
- 所在部署・設置場所
- 管理状態・利用状況

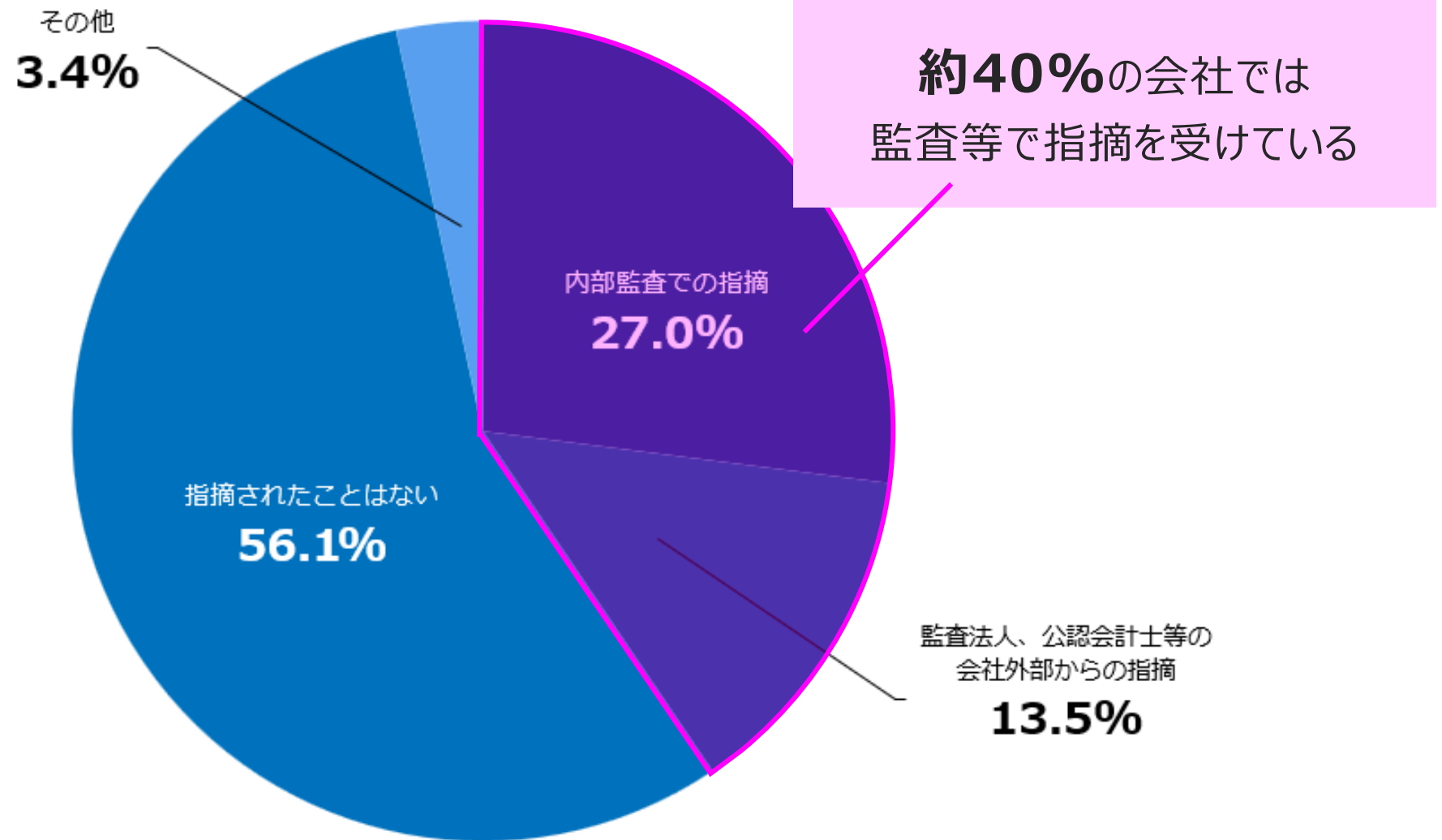
事実、台帳と実態は乖離しやすい



質問：「固定資産物品の「管理台帳」について課題と感じていることをお答えください(複数回答)」

(出典：株式会社コンビベース「2024年度版_固定資産物品の管理に関するアンケート調査(202411-1)」)

＜参考＞ 監査から指摘を受けている割合



質問：「物品管理について、社内外から指摘を受けたことはありますか？」

（出典：株式会社コンビベース「2024年度版_固定資産物品の管理に関するアンケート調査（202411-1）」）

※指摘を受けたことがある：どのような組織から指摘を受けたかを回答

※指摘を受けたことがない：「指摘されたことはない」と回答

Excel管理で行う棚卸しは大変

「資産の実在性」を担保するために、毎年の棚卸しは必須。

①準備



- 棚卸しリスト作成
- 各現場へ棚卸しリストを配布

②現物確認（実査）



- 印刷した紙リストを元に物品を照合
(2人1組で実施するケースが多い)

③集計・更新



- 棚卸し結果を集計
- 会計システムと突合・データ更新

目視棚卸しの工数シミュレーション

※前提条件

- ・ 棚卸し対象資産数：1,000点
- ・ 対象フロア：5フロア

- ・ 対象拠点：1拠点
- ・ 資産移動率：10%

現物確認
約**83**時間

- ① 台帳記載の資産確認
- ② 現物の搜索と確認
- ③ チェック
(①②③の工程を5分/1点と仮定)

集計
約**4**時間

- ① 紙台帳で棚卸し結果確認
(有無等)
- ② Excel入力
(①②の工程を15秒/1点と仮定)

差異確認
約**3**時間

- ① 移動等の差異情報の確認・入力
(2分/1点と仮定)

データ更新
約**1**時間

- ① データ加工・メンテナンス
(30秒/1点と仮定)

延べ
約**91**時間

リースを管理する問題点

問題1

台帳と現物に差異が発生する

問題2

棚卸しの工数がかかる

■ 物品管理システム「Convi.BASE(コンビベース)」とは

2005年1月に提供を開始して以来、
累計 **1,300社** 以上のお客様の物品管理を支援してきました。

2025年1月で提供開始から **20周年** を迎え、
おかげさまで **導入実績No.1**※ の物品管理システムとなりました。



導入企業様 (抜粋)

NISSAN
MOTOR CORPORATION

SHIMADZU
Excellence in Science

TOPPAN

ネットトヨタ群馬

おいしいのびちをひらく
YOUKI

SOMPOコミュニケーションズ

漢検

Canon
キヤノンマーケティングジャパン株式会社

PFU
A RICOH Company

ブロードエンタープライズ

PASONA
日本総務部

CAINZ

南海システムソリューションズ

野村不動産

TOTO

日軽パネルシステム株式会社

NTTAT

日本パナソニック株式会社

WORKS JAPAN

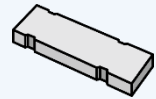
物品管理システム「Convi.BASE(コンビベース)」とは

柔軟な管理台帳で物品情報を一元管理し、**QRコード**や**ICタグ**で現物と紐づけることで、
資産の状態や状況などを簡単かつ正確にマネジメントできます。

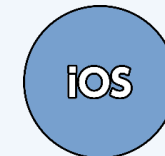
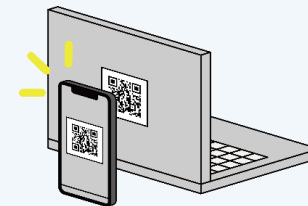
情報を一元管理できる
柔軟な台帳アプリケーション



QRコードやICタグで
現物と台帳を強力的に紐づけ



スマホで管理ラベルをスキャンして、
棚卸し、貸出し返却、移動管理、在庫管理、点検管理などを実現



※ICタグのスキャンはiOSデバイスとBluetooth接続する専用のRFIDハンディリーダーが必要です。
※AndroidアプリはQRコードに対応しています。

Convi.BASEはありとあらゆる物品を管理ができます

柔軟な項目設定で既存の運用に合わせた**お客様専用の管理台帳**を作成できます。
そのため、コンビベースは**管理対象を問わず**ご利用いただけます。

1

固定資産・備品

×

資産棚卸し



2

リース資産

×

リース期限管理



3

重要文書・文書箱

×

契約・廃棄期限管理



4

IT資産

×

貸出し返却

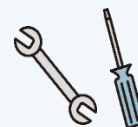


5

工具

×

点検管理



6

計測器

×

校正管理



7

店舗什器・厨房機器

×

移動管理



8

在庫・消耗品

×

入出庫・数量棚卸し



9

防災備蓄品

×

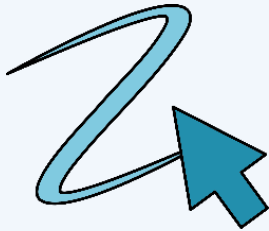
消費期限管理



Convi.BASEが選ばれる理由

1

操作性

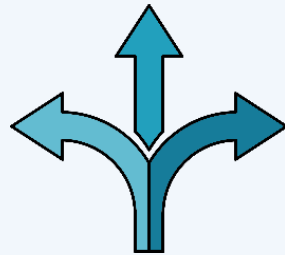


シンプルな画面構成で、どなたでも**直感的に操作**いただけます。

iOS・Androidアプリを利用して、**外出先や現場**からもご利用いただけます。

2

柔軟性

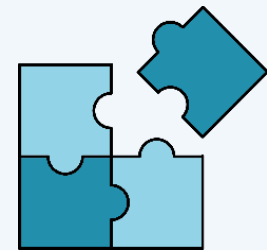


管理項目を自由にカスタマイズして、**既存の運用に合わせた**お客様専用の管理台帳を作成できます。

写真やExcel、PDFなどの関連ファイルの添付も可能です。

3

拡張性



さまざまな部門や拠点での、**あらゆる業務・用途**で活用できます。

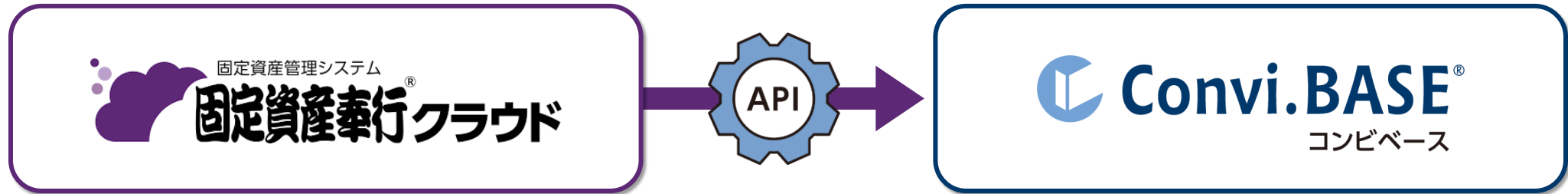
アプリケーションを追加することで、「**管理対象を拡張したい**」「**他部門やグループ会社でも使いたい**」という声にお応えします。

Convi.BASEの運用イメージ



2. Convi.BASEの運用イメージ（API連携）

固定資産奉行クラウドとConvi.BASEをAPIで連携することで**連携作業を簡素化し、常に最新情報を共有**できる。



連携方法

手動：任意のタイミングで連携を実行

スケジュール化：あらかじめ設定したスケジュールで連携が実行

※ 固定資産奉行 V ERPクラウドとのAPI連携は開発予定です



Convi.BASEによる棚卸しの効果（シミュレーション）

目視棚卸し の場合



Convi.BASE の場合



<参考> 棚卸しシミュレーション

比較項目	目視棚卸し	Convi.BASE棚卸し
現物確認	約 83 時間	約 17 時間
	①台帳記載の資産確認 ②現物の搜索と確認 ③チェック（①②③の工程を5分/1点と仮定）	①スマホで読取りフロア指定（1分と仮定） ②QRコードラベル読取り（1分/1点と仮定）
集計	約 4 時間	約 1 分
	①紙台帳で棚卸し結果確認（有無等） ②Excel入力（①②の工程を15秒/1点と仮定）	①Convi.BASEへ棚卸し結果送信
差異確認	約 3 時間	約 2 時間
	①移動等の差異情報の確認・入力（2分/1点と仮定）	①差分チェックリスト自動生成（約1分） ②差異(移動)情報の確認（1分/1点と仮定）
データ更新	約 1 時間	約 1 分
	①データ加工・メンテナンス（30秒/1点と仮定）	①自動更新（移動履歴自動保存）
	延べ 約 91 時間	延べ 約 19 時間

※前提条件 ・ 棚卸し対象資産数：1,000点 ・ 対象拠点：1 拠点 ・ 対象フロア：5フロア ・ 資産移動率：10%

Convi.BASEのリース管理の事例①

パソナ日本総務部様の事例

管理対象

53拠点の約10,000点のリース資産（什器、オフィス家具、複合機、社用車など）

課題

リース契約の更新や棚卸し業務がExcel管理で属人化し、非効率な運用が行われていた。

→ [事例記事を読む](#)

導入の決め手

① 柔軟なデータベース管理

「Convi.BASE」は柔軟性が高く、Excel VBAでのAPI連携が可能なため

② スムーズな移行

既存のExcelデータをインポートするだけでシステム立ち上げができるため

導入効果

① 業務効率化

データの一括更新や履歴管理により、リースの処理工数が約40%削減

② データの信頼性向上

更新履歴の自動保存により、データの整合性と信頼性が向上

今後の展開

① 自動通知機能の活用

アラートメール送信機能を利用し、リース契約満了や棚卸しの連絡を自動化

② 他業務への展開

「Convi.BASE」の適用範囲を拡大し、他のExcel管理業務への導入を検討

Convi.BASEのリース管理の事例②

ネットヨタ茨城様の事例

管理対象

26店舗と4施設で、約1,500点の償却資産（機械装置、什器・備品、社有車など）

課題

- ・ 資産管理が特定の担当者に依存しており、退職により管理状況が不明確に
- ・ 台帳と現物の不一致や、棚卸し作業の非効率性が顕在化していた

→ [事例記事を読む](#)

導入の決め手

①属人化の解消

資産管理の属人化を解消し、資産情報を一元的に管理し、リアルタイムでの把握を可能にするため

②効率的な棚卸し

QRコードを活用した効率的な棚卸しを実現するため

導入効果

①棚卸し時間の大幅短縮

1店舗あたり3日かかっていた棚卸し作業が、約15分で完了。棚卸しの進捗状況をリアルタイムで把握可能に。

②資産情報の正確性向上

台帳と現物の情報が一致し、資産の有無が明確に。資産管理に対する社員の意識が向上し、適切な管理・処分が促進された。

今後の展開

①メンテナンス管理への応用

サービスカーの車検日やオイル交換日の管理など、他の業務への「Convi.BASE」の活用を検討

②他社事例の参考

他社の導入事例を参考にし、さらなる活用の幅を広げる予定



お問い合わせ

株式会社コンビベース
営業部 マーケティンググループ



03-5643-6743



cb-info@convibase.co.jp